

## 里海学舎構想について【伊勢志摩里海学舎 報告】

## 1. 運営実施体制

- ・2016 年 10 月から日本財団による「志摩渚の交番準備事業」助成開始
- ・2017 年夏より間崎島に「志摩渚の交番準備事務所」開設
- ・2017 年 11 月より新役員体制に移行
  - －代表理事：一色真司、理事：伊藤佳行、豊島廣通、加藤款也、監事：門原頌
  - －常勤コーディネイター3名
- ・2017 年 11 月からコーディネイター1名が間崎島へ移住

## 2. これまでの活動状況

【方針】「志摩渚の交番」設置に向けて間崎島島民の理解促進をはかり、間崎島で実施可能な体験活動等について検討する。伊勢志摩里海学舎の5年後の自立を目指し、収益性の高いプログラムの開発、非常勤で雇用できるガイドや語り部の発掘、育成を行い、空き家施設の活用等を検討実施する。

## 【概況】

- ・「間崎島渡島プロジェクト」（最低週1回実施）：里海学舎構想の説明、間崎島の情報収集を実施。
- ・ガイド育成 5日間の養成講座を2回実施（受講者26名）
- ・プログラムの開発実施状況

## &lt;提供可能プログラム&gt;

アコヤガイ真珠取出し体験（解剖実習）、アコヤガイ貝細工体験、ビーチコーミング体験、アマモ観察シーカヤック体験、シュノーケル海中観察体験、間崎島島内散策

## &lt;開発済検証・準備中プログラム&gt;

- アオサ収穫体験、漁業体験（カゴ網漁等）、冬の海中観察体験
- ・小中高校生を対象とした英虞湾を中心とした環境学習（10回）
- ・間崎島での活動補助（草刈り、清掃等）
- ・各種イベントの企画・実施（名水サミット、国立公園70周年等）
- ・伊勢志摩国立公園調査業務等

## 3. 2018年からの活動

## &lt;課題&gt;

- ・将来の自立を目指した収益性の確保
- ・間崎島での滞在利便性の確保（現在、飲食購買等が不可能）

## &lt;活動計画&gt;

- ・「志摩渚の交番」の設計等準備と提供サービスの実証（建設予定地や準備事務所利用）
- ・体験プログラムに飲食を組み込むことで長時間の滞在を可能とし、複数の開発プログラムのパッケージ化をはかり、体験プログラム単体の質向上に努める。
- ・伊勢志摩の小中学校を対象にした教育プログラムの開発と実施に注力。